

平成17年度経営構造対策事業評価表（第5年度目）

都道府県名	石川県	施設整備	事業内容	実施(予定)年度	受益戸数	受益面積
市町村名	小松市		地域農業管理施設	H13	1,972戸	4,008ha
地区名	小松地区		大豆乾燥調製施設	H14	259戸	100ha
認定年度	H13		種子乾燥調製施設	H14	40戸	20ha
目標年度	H17		大豆用コンバイン	H14	259戸	100ha
			種子用コンバイン	H14	40戸	20ha
			無人ヘリコプター	H14	1,972戸	3,020ha
			種子用コンバイン	H15	40戸	20ha
			種子用コンバイン	H16	40戸	20ha
			無人ヘリコプター	H17	1,972戸	3,020ha

1 全国共通目標

事項	計画時	目標	目標達成プログラム (上段:計画 中段:実績 下段:達成率)					達成状況 (評価)
			1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	
認定農業者の育成 (人)	83	134	93	103	113	123	134	
			104	108	135	138	148	
			210	125	173	137.5	127.4	
担い手への農地の 利用集積 (ha)	610	2,020	(23.8)	(32.3)	(40.8)	(49.3)	(50.8)	
			947	1,285	1,621	1,960	2,020	
			(21.5)	(35.5)	(41.6)	(44.1)	(50.9)	
			921	1,416	1,652	1,753	2,025	
上段( )は集積 率で%			92.2	119.4	103.1	84.7	100.2	
遊休農地の解消 (ha)	0	0	0	0	0	0	0	
			0	0	0	0	0	
			100	100	100	100	100	

2 地区選択目標

(1) 一般選択目標

事項	計画時	目標	目標達成プログラム (上段:計画 中段:実績 下段:達成率)					達成状況 (評価)
			1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	
新規就農者の確保	0	20	0	5	10	15	20	
			0	4	9	13	20	
			100	80	90	87	100	
農業関連女性起業	2	5	2	3	4	4	5	
			2	3	4	4	5	
			100	100	100	100	100	
種子の面積拡大	4	20	7	10	14	18	20	
			7.5	12.5	16.4	20.0	21.0	
			116	142	124	114	106	

(2) 水田農業構造改革目標

ア 作付面積

事項	計画時	目標	目標達成プログラム (上段:計画 中段:実績 下段:達成率)					達成状況 (評価)
			1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	
大 麦	189	400	330	400	400	400	400	×
			330	400	394	370	325	
			100	100	97.1	85.7	64.4	
大 豆	93	130	100	110	115	120	130	×
			98	120	143	121	90	
			71	159	227.3	103.7	-8.1	

イ 販売計画

事 項	計画時	目 標	目標達成プログラム (上段：計画 中段：実績 下段：達成率)					達成 状況 (評価)
			1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	
大 麦	664	1,600	1,155	1,500	1,560	1,600	1,600	×
			1,261	1,115	1,130	1,368	919	
			121.5	54.0	52.0	75.2	27.2	
大 豆	165	310	185	215	265	280	310	×
			180	176	201	81	122	
			75.0	22.0	36.0	-73.0	-29.6	

3 所見及び改善措置等

目 標 項 目		具 体 的 活 動 内 容
共 通 目 標	認定農業者の育成	目標に達しているが、さらに認定農業者が育成されるよう小松市担い手育成総合支援協議会で、認定農家意向の農業者へ説明や指導を行う。
	担い手への農地利用集積	目標に達しているが、さらに農地利用集積に努め、企業の農業者の育成を図るため、市、農業委員会、JA と連携をとりながら、農地保有合理化事業による利用権設定など積極的な推進を行う。
	遊休農地の解消	引き続き集落営農などの地域の担い手育成を行い、遊休農地が発生しないように努める。
選 択 目 標	大麦の作付面積	平成15年度産米の不作及び平成16年度からの米政策改革による地域間調整により、小松市の転作率が24.8%(H17)と大幅に緩和されたことにより水稻作付への転換が進み、大麦の作付が減少した。今後、集団栽培の推進、作物を作付けしない農地(自己保全管理)を大規模農家へ斡旋するなど、土地の高度利用による面積拡大を啓発する。
	大麦の販売計画	作付面積の減少に加えて、播種時の天候不良(降雨)による苗立不良と全体の茎数不足により収量は低かった。今後は、播種時の天候不良に対応した溝切りの徹底、肥培管理により収量減にならないように努める。
	大豆の作付面積	大豆の作付面積に関しても、大麦と同様に転作率の緩和により水稻作付への転換が進んだことから、大豆の作付面積は減少した。今後、大麦と同様に、集団栽培の推進、作物を作付けしない農地(自己保全管理)を大規模農家へ斡旋するなど、土地の高度利用による面積拡大を啓発する。
	大豆の販売計画	作付面積の減少に加えて、大豆の収量については、5月下旬の集中降雨による湿害により発芽不良・茎疫病が発生した。また、9月7日の台風14号による強風でなびき倒状や強制落葉が発生し、子実肥大の阻害要因となり、全般的に小粒化し、粒形も扁平の屑が多く発生し減収となった。今後は、自然災害に強い大豆づくりを農林総合事務所と連携しながら推進していく。
	新規就農者の確保	目標に達しているが、さらに新規就農者が確保されるよう農家子弟の情報収集に努める。
	農業関連女性起業数の増加	目標に達しており、今後、これらの女性起業が農産物加工施設を拠点に加工から販売までの各種実践活動できるよう指導する。

	種子の面積拡大	県指定水稻種子生産の割当面積の20haをH16年から達成できていることから、今後は、より高品質種子の生産が行われるよう指導する。
--	---------	--

添付資料

都道府県経営・生産対策会議の所見

<p>全国共通目標である認定農業者の育成、担い手への農地の利用集積及び地区選択目標の新規就農者、農業関連女性起業、種子面積については目標を達成しており、今後は更に増加するよう指導する。</p> <p>大麦・大豆の作付面積・販売拡大については、平成16年度からの米政策改革による転作の緩和に伴って水稻作付への転換が進んだことにより大幅に減少した。</p> <p>大豆の収量についても、5月下旬の集中降雨による湿害により発芽不良・茎疫病が発生したことや、9月7日の台風14号による強風でなびき倒状や強制落葉が発生し、子実肥大の阻害要因となり、全般的に小粒化し粒形も扁平の屑が多く発生した。これらの理由により、作付面積・販売計画とも減少し、目標を達成することができなかったが、このことは事業主体の責に帰すべきでないと認められる。今後、麦・大豆は転作作目の重要品目と位置づけから、集団栽培の推進や作付けしていない農地などの土地の高度利用により面積の拡大が図られるよう指導するとともに、自然災害に強い栽培方法について、農業総合研究センターと連携を図り推進していく。</p>
---